飛翔

オーイング社報
第６９号 令和２年６月２３日
発　行　者
株式会社オーイング 社報編集委員会
福井県大飯郡高浜町東三松 9-9-13
Tel.0770-72-5010㈹
編集責任者 江端 重政

第24期株主総会

6月18日、第24期定時株主総会及び取締役会議が小浜市で開催されました。決算報告・承認の後、コンプライアンス委員会とその事務局となるコンプライアンス推進室設置の議案が上程され満場一致で承認されました。議長席の水野代表取締役社長からは「我が社を取り巻く環境は依然厳しい状況にありますが、全社員が一丸となってこの難局を乗り越えて欲しい。私も全身全霊で取り組んでいきます。今ここでオーイングが変わらなければ変わるチャンスはない。共に新しいオーイング再生に全力を傾けて欲しい。」と、訓示があり新体制がスタートしました。

コンプライアンス推進室便り

我社にコンプライアンスを推進する部署ができました。このコーナーではこれから毎号でコンプライアンスに関する解説や最新の情報をお届けします。

「コンプライアンス」という言葉、一度は聞いたことがあると思いますが、これは「法令順守」という意味で、企業がルールや社会的規範を守って行動することを指します。最近は倫理観や道徳観、社内規範といったより広範囲な意味で使われることが一般的です。さらに「企業の社会的責任」を果たすことを含む広義のコンプライアンスを取り込むことで、社会からの信頼が得られ、イメージアップを図り企業の知名度を上げるといったメリットがあります。

これを進めるうえで、社員の皆さんに知っておいていただきたいことがあります。

それは、「内部通報制度」です。これは自社内で不正や不適切な事案を発見し対処するいわば自浄作用を促すもので皆さんが主役です。

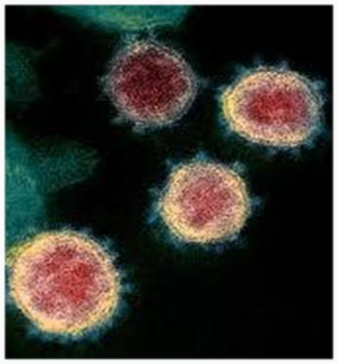
相談や通報はコンプライアンス推進室の窓口へ直接お問い合わせください。通報者の個人情報は厳重に保護され一切の不利益を被りません。

現社長は平成３０年６月の社長就任時に「法令順守は企業の土台となるものであり、いかなる時にも優先する行動基準であります」と宣言しました。

経営理念「人材の育成」、「地域社会への貢献」や企業理念「安全と安心で地域社会に貢献します」の精神に基づき、透明性の高い、働きやすい「新生オーイング」を目指して共に頑張りましょう！

新型コロナ感染症から社業・社員を守る！

百年に一度の国難といわれる新型コロナウイルス感染症から社業・社員を守るため、様々な取り組みがとられ万全の体制が継続されています。



4月17日には、「重要施設警備業務を主とするその他全業務の事業継続計画」が策定され、社長を対策本部長とする対策本部が本社に設置されました。

さらに21日には各本部・支店に対して社員同士の3密を避けるために分散出勤の特別勤務体制が指示されました。具体的対応としては、各発電所に非接触型の体温計を複数個配布。室内の空気管理にはオーイングが販売を進めている超音波噴霧器「セイバーオードリン」をまちの駅やきららの湯など関係14か所に積極的に配置しました。

段ボールで飛沫防御

また事務所内の安全環境を確保する観点から、新型コロナウイルスの飛沫感染等を防ぐため、事務机の間を段ボールの衝立で仕切る取り組みが4月23日から全社を対象に行われています。新型コロナウイルスは感染者の咳などに交じって体外に出ると何かの表面でかなり長い時間残存することが分かってきました。実験ではプラスチックの表面では3日後も感染力を保っていましたが身近な段ボールでは1/3の約1日で死滅しました。ここに目を付けたもので、日ごろ取引のある小浜市の紙業会社に依頼し1200mm×1200mmの段ボール70枚を調達し設置しました。

厳戒・発電所警備

一方で発電所警備員については全員に完全マスクの着用を指示し、県外への外出があった場合は2週間の発電所内への入域を禁止するという厳しい措置が取られました。中央制御の部署にあっては全員白手袋を着用し待機室に次亜塩素の噴霧器を設置しました。また個々人の体調管理にも配慮して、手洗いやうがいの励行を推奨。出勤時の体温測定や体調の変化の有無について確認し一覧表に記載し不測の事態に備えるという今までになかった厳重な対応がとられました。交通誘導警備員についても、手洗いやうがいの励行を推奨し出勤時の体温測定、体調の管理を徹底し一覧表にして管理しました。さらに作業中は完全マスクの着用を徹底し、できうる限り接触者の覚書を書き残すよう努めました。峠は越えたかに見える新型コロナ感染症。しかし、終息には程遠く、第2波、第3波に対する備えを忘れてはいけません。

編集後記

新型コロナウイルス感染症問題は根深い。ようやく県境を越えた移動の自粛が解除されたがまだ恐る恐るなのか報道によっては「緩和された」との表現に留めている所もある。社会の歯車は元には戻らない。かつての日常は失われ新たな日常の模索が始まっている。人と人の物理的距離、ソーシャルディスタンスを常に確保することが求められコミュニケーションがとりづらい。暑い季節のマスクも息苦しく不快なうえ熱中症の危険があるとのことで要注意だ。こんな中、24時間厳戒態勢で警備を続けている発電所警備は一人の感染者も出さずその役目を果たしている。大変なご苦労と努力があるのだろうと頭が下がる。嶺南の地で創業し多くの地元の人々を雇用し常に安全と安心を地域の皆様にお届けする、そんな地道な努力をコツコツと積み重ねることがわが社らしい地域貢献なのだと改めて思う。コロナ禍は続くが、「初心にかえり」再び「ゼロからの出発」を心に刻み地域社会に貢献できる企業を社員一丸となって目指していきたい。（E）